

安全データシート

【1 製品及び会社情報】

住 所	大阪府和泉市テクノステージ 3-1-11
会 社 名	メディカル・エイド株式会社
電話番号	0725-53-3270
FAX 番 号	0725-53-5337
作成・改訂	令和 5 年 12 月 4 日

製品名	導電性防錆溶剤
-----	---------

【2 危険有害性の要約】

重要危険有害性及び影響

特有の危険有害性

GHS 分類

火薬類	分類対象外
引火性・可燃性ガス	分類対象外
酸化性ガス類	分類対象外
高压ガス	分類対象外
引火性液体	区分 4
可燃性固体	分類対象外
自己反応性化学品	分類対象外
自然発火性液体	区分外
自然発火性固体	分類対象外
自己発熱性化学品	分類できない
水反応可燃性物質	分類対象外
酸化性液体	分類対象外
酸化性固体	分類対象外
有機化酸化品	分類対象外
急性毒性（経口）	区分 5
急性毒性（経皮）	区分 5

急性毒性（吸入—ガス）	分類対象外
急性毒性（吸入—蒸気）	区分 2
皮膚腐食性・刺激性	区分 2
眼刺激性	区分 2
呼吸器感作性	分類できない
皮膚感作性	区分外
生殖細胞変異原性	区分外
発がん性	分類できない
生殖毒性	区分外
特定標的臓器・全身毒性	
（単回暴露）	区分 1（中枢神経系） 区分 3（気道刺激性）
（反復暴露）	区分 2
吸引性呼吸器有害性	区分 2
水生環境急性有害性	区分外
水性環境慢性有害性	区分外

ラベル要素

絵表示



注意喚起語

危険

危険有害性情報

引火性液体及び蒸気
 飲み込み、気道に侵入すると生命に危険のおそれ
 皮膚刺激
 重篤な眼への刺激性
 吸入すると有害(蒸気)
 気道への刺激のおそれ
 発がんのおそれの疑い
 生殖能または胎児への悪影響のおそれ
 臓器の障害のおそれ
 水生生物に毒性あり

安全対策

保護手袋・保護眼鏡・保護面を着用すること
 防爆型の電気機器を使用すること

容器および受器を接地すること
必要な時以外は環境への放出を避けること
この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと
すべての安全注意を読み理解するまで取扱わないこと
取扱い後は手をよく洗うこと
容器を密閉しておくこと
屋外または換気の良い場所でのみ使用すること
必要に応じて個人用保護具を使用すること
火災を発生しない工具を使用すること
熱、火花、裸火等の着火源から遠ざけること
蒸気の吸入を避けること
静電気放電に対する予防措置を講ずること
火災の場合には、消火に泡、ドライケミカル、炭酸ガスを使用する

救急措置

吐かせないこと
吸入した場合は空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
暴露した時、または気分が悪い時は、医師の診断を受けること
汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯すること。
皮膚又は毛にかかった場合は直ちに衣類を脱ぎ多量の水と石鹼で洗うこと。
皮膚刺激が生じた場合は医師の手当てをうけること。
眼に入った場合は水で数分間注意深く洗うこと、次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと、その後も洗浄を続けること。
眼の刺激が続く場合は、医師の診断を受けること。
飲み込んだ場合は直ちに医師に連絡すること。

保管

容器を密閉して換気の良い場所で施錠して保管すること

廃棄

内容物を都道府県知事の規則に従って専門の廃棄物処理業者に委託処理する

【3 組成及び成分情報】

成 分 名	CAS No.	含有量	備考
酢酸エステル	141-78-6	55%	
IPA	67-63-0	25%	
ブチルセロソルブ	111-76-2	9%	
アクリル樹脂溶液	104609-24-7	7%	
酸化スズ	18282-10-5	4%	

【4 応急措置】

吸入した場合	被災者を直ちに空気の新鮮な場所に移動させ、 体を毛布等で覆い保温して安静を保つ。 呼吸が止まっている場合及び呼吸が弱い場合は、衣類 をゆるめ、呼吸気道を確保した上で人工呼吸を行う。 直ちに医療処置を受ける。
皮膚に付着した場合	直ちに汚染された衣類、靴等を脱ぎ、皮膚に付着した 部分を石鹼水又は多量の水で洗い流す。
目に入った場合	清浄な水で最低１５分間以上洗眼する。洗眼の際は眼 球のすみずみまで水がよく行きわたるように洗う。痛 みが残る場合は直ちに眼科医の治療を受ける。
飲み込んだ場合	揮発性液体なので吐き出させると危険である。 直ちに医療処置をうける。水でよく口の中を洗わせて もよい。意識のない被災者には口から何も与えてはな らない。

【5 火災時の措置】

消火方法	：火災または高温により煙、煙霧、不完全燃焼時の 生成物、炭素酸化物が生成するので、呼吸保護具 を着用する。 消火のための放水などにより、環境に影響を及ぼ す物質が流出しないよう適切な措置を行う。 初期の火災には、泡、粉末、炭酸ガス消火剤を用 いる。注水は、火災を拡大し危険な場合がある。 消火作業の際には、風上から行い必ず保護具を着 用する。
漏出時の処置	：乾燥砂、土、ウェス等でふき取り密閉式の空容器

その他

に回収する。

作業の際には呼吸保護具を着用する。

：蒸気は可燃性で空気より重いため、地面を移動して遠方の着火源に到達し、逆火の危険を起こすことがある。

【6 漏出時の措置】

人体に対する注意事項
保護具及び緊急時措置

風上から作業を行い、風下の人を待避させる。

漏出した場所から周辺にロープ等で立ち入り禁止措置を講じる。付近の着火源となる恐れのある物を速やかに取り除く。消火設備を準備する。

環境に対する注意事項

河川等に排出され、環境へ影響を起こさないように注意する。環境中に放出してはならない。

回収、中和

回収作業においては、火花を発生しない安全なシャベル等を使用する。

少々漏れた時は、おが屑、ウエス、砂等に吸収させて、密閉できる空容器に回収する。

大量に漏れた時は、土のう等で流出を防止して液の表面を泡等で覆い空容器に回収する。

二次災害の防止策

すべての発火源を速やかに取除く（近傍での喫煙、火花や火災の禁止）。排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

【7 取扱及び保管上の注意】

取扱

取扱者の暴露防止

漏洩させないようにするとともに、みだりに蒸気を発生させない。接触、吸入防止のため、取扱い時には保護具を着用する。取扱いは換気のよい場所で行う。取扱いの都度容器を密閉する。

火災、爆発の防止

静電気対策のため、装置、機器等には接地を確実に行う。電気機器類は防爆型のものを使用する。

保管

保管条件

熱、火花、裸火のような着火源から離して保管する。

禁煙。酸化剤から離して保管する。容器は直射日光や火気を避ける。容器を密閉して換気の良い冷所で保管する。施錠して保管する。容器を密閉して換気の良い場所で保管

	する。
容器梱包材料	消防法の基準に適合している容器。

【8 暴露防止及び保護措置】

管理濃度	データ無し
許容濃度	データ無し
設備対策	製造業者が指定する防爆の電気・換気・照明機器を使用すること。静電気放電に対する予防措置を講ずること。 この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置すること。 空気中の濃度をばく露限度以下に保つために排気用の換気を行うこと。 高熱工程でミストが発生するときは、空気汚染物質を管理濃度以下に保つために換気装置を設置する。
呼吸器の保護具	防毒マスク（有機ガス用）、送気マスク、空気呼吸器
手の保護具	耐油性の手袋
目の保護具	ゴーグル型、防災面
皮膚及び身体の保護具	保護長靴、保護服、保護前掛け
衛生対策	この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。 換気を良くする。取扱い後は良く手を洗うこと。

【9 物理的及び化学的性質】

当該化学物質等の外観	
物理的状态	液体
臭い	特異臭
Ph	データなし
融点・凝固点	データなし
沸点、初留点及び沸騰範囲	データなし
引火点	-4℃
燃焼又は爆発範囲の上限・下限	データなし
蒸気圧	データなし
蒸気密度	データなし
比重（相対密度）	データなし
溶解度	データなし
n - オクタノール／水分配係数	データなし
自然発火温度	データなし

分解温度	データなし
臭いのしきい値	データなし
蒸発速度	データなし
燃焼性（固体、ガス）	データなし

【10 安定性及び反応性】

安全性	法規制に従って保管および取扱においては安定と考えられる。
避けるべき条件	加熱・高温
混触危険物質	強力な酸化剤・塩基または酸・強アルカリ。
危険有害な分解生成物	火災時の燃焼により、一酸化炭素・二酸化炭素などの有害ガスが発生する。

【11 有害性情報】

急性毒性	経口 ラット LD50 5260mg/kg 吸入 ラット LC50 16000ppm/6H 吸入 ラット LC50 2.2mg/L/4H(450ppm/4H) ミスト(雌) 経皮 ウサギ LD50 99mg/kg 435mg/kg 610mg/kg
皮膚腐食性・刺激性	ウサギ皮膚に0.01m lを24時間開放適応した結果、赤斑が観察され刺激性があり接触性皮膚炎を起こしたとの報告もあり、基づき、区分2とした。
眼に対する重篤な損傷・刺激性	ウサギを用いた試験において、7日間の時点で結膜の発赤と浮腫が残っていたことから、区分2とする。
呼吸器感作性	データ無し
皮膚感作性	モルモットのマキシ化 [®] ーション試験で感作性なしの報告及びヒトで被験者25名を用いて実施した。感作性なしの結果に基づき区分外とした。
生殖細胞変異原性	ラット及びマウスにおける優勢致死の報告及びマウス生殖細胞における異数性誘発の報告がある。
発がん性	IARCはグループ3（ヒト発がんには分類されない物質）。ACGIHはグループA3（動物発がん性が

	確認され、ヒトとの関連は不明な物質)に分類している。
生殖毒性	データ無し
特定標的臓器・全身毒性－単回暴露	ヒトで 400ppm を 4 時間ばく露により鼻腔、咽喉と眼に軽度の刺激が報告されている。 区分 3 とした。中枢神経系に作用があり 区分 1 とした。
特定標的臓器・全身毒性－反復暴露	長期又は反復ばく露による血管・肝臓・脾臓に影響が認められたとの記述から区分 2 とした。
吸引性呼吸器有害性	データ無し

【12 環境影響情報】

水生環境急性有害性	甲殻類 ジンコ EC50 164mg/L/48H あることから区分外。
水生環境慢性有害性	軟水溶液でなく急性毒性が低いことから区分外とした。

【13 廃棄上の注意】

残余廃棄物	廃棄においては、関連法規ならびに地方自治体の基準に従うこと。都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理する。 廃棄物の処理を委託する場合、処理業者等に危険性、有害性を十分告知の上処理を委託する。
焼却法	アフターバーナ及びスクラバ付きインシナレータの中で焼却する。
汚染容器、包装	容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規ならびに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。 空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

【14 輸送上の注意】

国際規制	
会場規制情報	IMO の規定に従う。
航空規制情報	ICA0・IATA の規定に従う。
国内規定	
陸上規制情報	消防法の規定に従う。
海上規制情報	船舶安全法の規定に従う。
航空規制情報	航空法の規定に従う。

【15 適用法令】

労働安全衛生法	名称等を通知すべき危険物及び有害物 名称等を表示すべき危険物及び有害物 危険物・引火性の物 有機中毒予防規則：第二種有機溶剤等
毒物及び劇物取締法	非該当
海洋汚染防止法	有害液体物質（Z 類物質）
消防法	第四類引火性液体、第一石油類非水溶性液体
船舶安全法	引火性液体類
航空法	引火性液体
PRTR 法	第一種指定化学物質

【16 その他の情報】

参考文献

「14102の化学物質」 化学工業日報社
「化学品安全管理データブック」
「GHS対応SDSラベル作成ガイドブック」 社団法人日本塗料工業会
各原料のSDS

その他

本書の内容は、法規改正、新しい知見や情報入手、試験等により改訂されることがあります。

記載内容は現時点で入手出来た資料や文献等の情報に基づいて作成しておりますが、記載のデーターや評価に関しては如何なる保証をなすものではありません。全ての化学製品には、未知の危険性や有害性が有り得るため、取扱いには細心の注意が必要です。

本書には通常の危険性や有害性について記載してありますが、記載内容以外の危険性や有害性が存在しないことは保証出来ません。

記載事項は通常の実施を前提としたものであり、特殊な取扱いをする場合には、新たに用途、用法に適した安全策をご実施の上、取扱い願います。